

Public Psychology Lab., University of Tsukuba

今日、ヘルメット被りました。 ~筑波大生ヘルメット着用推進編~

班長：宗岡禾子 副班長：藤井優衣・平岡大輝 DB：植村菖太郎
書記：矢場理人・加賀悠生 渉外：南慶汰 文書管理：吉田歩加
担当教員：谷口綾子 TA：林凜太郎 協力：茨城県警察

1

1. 背景

2

1. 背景 ヘルメット着用の努力義務

【道路交通法 第63条の11】

自転車の運転者は**乗車用ヘルメットをかぶるように努めなければならない**

※令和5年4月1日施行の改正により
すべての年齢層の自転車利用者に対して乗車用ヘルメット着用の努力義務が課された

努力義務：そのことを行うように努めなければならないという規定。罰則はない。

提供：茨城県警察

3

1. 背景 筑波大学周辺の事故の多さ

茨城大生の自転車事故発生状況 茨城大半径3km 5年間で 21件

筑波大生の自転車事故発生状況 筑波大半径3km 5年間で 66件

茨城大(水戸キャンパス)4,931人 筑波大学(つくばキャンパス)15,984人

単一キャンパスに多くの学生が集まり事故が多く発生

提供：茨城県警察

4

1. 背景 大学生のヘルメット着用率の低さ

年齢層	ヘルメット着用率
大学生等	5.3%
高校生	11.0%
高齢者	19.3%
小学生	23.8%
中学生	46.9%

事故時ヘルメット着用者は 23.8% (R6)

ヘルメット着用者の中で大学生等は5.3% (R6)

事故時のヘルメット着用率: R4 (16.0%), R5 (22.4%), R6 (23.8%)

ヘルメット着用者数: R4 (893人), R5 (920人), R6 (797人)

死亡者数: R4 (143人), R5 (206人), R6 (190人)

提供：茨城県警察

5

1. 背景 ヘルメットを着用した時の事故被害

事故時、ヘルメット着用により 損傷が**軽減 (76.3%)**

損傷状況	人数	割合
損傷軽減	145人	76.3%
損傷同じ	45人	24%

事故時のヘルメット着用率: R4 (16.0%), R5 (22.4%), R6 (23.8%)

ヘルメット着用者数: R4 (893人), R5 (920人), R6 (797人)

死亡者数: R4 (143人), R5 (206人), R6 (190人)

交通安全の為に 筑波大生のヘルメット着用意識を上げる必要がある

提供：茨城県警察

6

1. 背景
7 先行研究

著者名, 発行年, タイトル, ジャーナル, 掲載ページ	研究目的	研究結果
山元敏久, 2024, 自転車用ヘルメットに対する消費者意識, 比治山大学紀要 第30号, p41-48	消費者のヘルメットに対する意識を調べた。	事故や補助金によってヘルメットの関心が高まる。
谷口嘉男, 谷口俊治, 志堂和則, 2020, 小・中学生の自転車運転行動とヘルメット着用の背景要因, 交通心理学研究 第36号, p31-41	小中学生を中心に安全教育の効果的な方法を考えた。	学年が上がるとヘルメットの着用率が下がる。
内藤栄二, 2014, 【大学生によるまちづくり提案】宇都宮市内を走る自転車利用者のヘルメット装着率を高くすることで市民の安全を守るためにはどうしたらいいか, 宇都宮県立大学 都市経済研究年報 第14号, p166-177	ヘルメットの着用率を高めるための方法を大学生の観点から考えた。	ヘルメット着用率を高めるためのアプローチとして「見た目や機能を変える」という提案がされた。
佐々木淑恵, 戸倉直, 萩原一郎, 2024, お洒落なヘルメットの開発, 計算工学講演会論文集 Vol 29	快適でおしゃれな折り紙構造のヘルメットの開発	快適さとデザイン性は両立できたがヘルメットの耐久基準はまだ満たしていない

ヘルメットの着用意識を上げるには

- ・事故・補助金の情報を提供すること
- ・デザイン性や快適性を向上させることが重要

7

1. 背景
8 先行研究

Jean-Baptiste Richard 2013
Evolution of bicycle helmet use and its determinants in France:2000-2010
Accident Analysis & Prevention Volume 60 (113-120)

・フランスにおける自転車ヘルメット着用率の2000年~2010年での変化
・着用が義務化されておらず、啓発キャンペーンが行われた状況下での実態調査

Table 1. Ordering of perceived risk for 30 activities and technologies (22)
The ordering is based on the geometric mean risk ratings within each group. Rank 1 represents the most risky activity or technology.

Activity or technology	League of Women Voters	College students	Active club members	Experts
Nuclear power	1	1	8	20
Motor vehicles	2	2	5	11
Handguns	3	3	4	3
Smoking	4	4	2	4
Alcoholics	5	5	3	5
Alcoholic beverages	6	7	5	3
General privacy	7	15	11	12
Electricity	8	8	7	17
Police work	9	4	15	8
Pesticides	10	11	9	18
Energy	11	10	6	18
Jet flying	12	14	15	14
Explosives/terrorism	13	18	20	23
Hanging	14	13	23	26
Spray cans	15	22	12	25
Mountain climbing	16	24	14	16
Bicycles	17	16	18	19
Electric power (non nuclear)	18	10	17	10
Blowing	19	30	17	10
Contraceptives	20	9	22	11
Blind	21	25	16	20
Blunt	22	37	24	27
High school and college	23	12	28	21
Ballroom	24	23	29	19
Food preservation	25	20	30	21
Food coloring	26	23	29	21
Power appliances	27	23	29	21
Prescription antibiotics	28	21	29	24
Power windows	29	29	29	25
Vaccinations	30	29	29	25

Table 2. Mean awareness (education/campaign) conducted from 1999 to 2007

Year	Media	Target	Additional information
1999	National and regional youth labor: Flyers in youth leagues	Young people	General campaign on helmet use during school, bicycle accidents
2001	Posters before in-store information offices, bicycle accidents, bicycle rental outlets	Cyclists	
2002	Brochures on national TV channels (Nov), September	General population	
2003	Brochures on magazines with more than 3,000 subscribers	Young people	An evaluation of the work showed that the most target was 35-49 year olds and those having 10-15 years old children. 10-15 year olds were targeted less.
2003	Health magazines (7-13 years old), Brochures on national channels (Jan), September	General population	4000 gross selling from Oct. 25-40 year olds, the evaluation of 30 years showed that half of consumer group intended to purchase helmet use for their children.
2004	1500 posters distributed in general information during one month in September	Cyclists	
2004	Posters, banners, posters and newsletters distributed in bicycle retailers, bicycle rental outlets	Young people	
2005	Information on youth magazines, Brochures on all TV channels (Nov), advertisement on the radio (radio in Europe, Nov 12)	General population	General population
2006	Posters on TV		Oct. 1-7 pm, radio in all of the public
2007	Posters on TV		

大学生は他の層と比べて自転車に恐怖心を抱いていない

フランスでは法律で縛らずに意識づけを行うことで着用率が10年間で約3倍に

自転車危険であること、ヘルメット着用でリスクが軽減できることを伝える事が重要

8

1. 背景
9 先行研究

北田淳子, 広報パンフレットの効果測定に関する研究ーパンフレットの構成要素が態度変容に及ぼす影響, 広告科学, 47巻, p17-32, 2006.

・原子力発電の安全性を訴求するパンフレットの効果を検証
・印象に残ったコンテンツの把握・態度変容効果の検証

表4 コンテンツの評価の経路表

サブテーマ	コンテンツ	ビジュアル要素	認知(1)	認知(2)	態度変容効果(注3)
表紙	表紙本文	なし	×	○	×
	表紙との違い	イラスト	○	○	○
発電所の中の放射線	混じり合わない2つの流れ	共通イラスト+共通写真	△	○	×
	放射線管理区域	共通イラスト+共通写真	△	○	×
使用済燃料プール	使用済燃料プール	イラスト+写真	○	○	○
	自然放射線と比較1000分の1	イラスト	○	○	○
発電所周辺の放射線	放射線管理区域	イラスト	×	×	×
	24時間監視カメラ	監視カメラ	○	○	○
貯蔵庫の放射線	貯蔵庫の放射線	表	○	○	○
	貯蔵庫の放射線	表	○	○	○
事故を防ぐために	止める・閉じ込める	イラスト	×	×	×
	冷却水の循環	イラスト	×	×	×
事故を防ぐために	放射線との距離	イラスト	×	×	×
	放射線との距離	イラスト	×	×	×
放射線防護	放射線防護	イラスト+写真	○	○	○
	放射線防護	イラスト+写真	○	○	○

情報提供前後で、原子力に対して好意的・肯定的に評価が動いた

受け手に関わりのある題材が有効

受け手にとって題材が身近で意外性のある内容がパンフレットにおいて有用

9

2. 研究の目的

10

2. 研究の目的
11

1. 自転車用ヘルメット着用の努力義務
2. 筑波大周辺での自転車事故件数の多さ
3. ヘルメット着用による事故被害の軽減力

筑波大生のヘルメット着用率が急務

<目的>

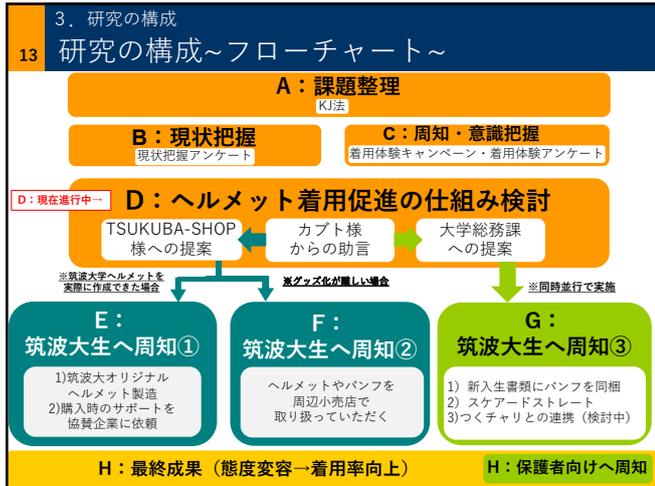
筑波大生のヘルメット着用率の向上

11

3. 研究の構成

12

12



13

4. 調査

14

15 4. 調査

A. 課題整理
→KJ法
(2025/10/6, ヘルメットを着けない理由とヘルメットを着ける動機, 班員で実施)

B. 現状把握
→現状把握アンケート

C. 周知・意識把握
→着用体験会
着用体験アンケート

15



16



17

18 4.調査

甲斐田先生へのインタビュー

現状調査のため、ヘルメットを着用している甲斐田先生にヒアリング

- 先生は2005年-2006年 スウェーデンに滞在
- 子供でヘルメットを着用していない人はほぼおらず、大人もそのほとんどがヘルメットを着用→他者の目を気にせず、ヘルメット着用を合理的に考えている。
- 欧州ではヘルメット着用が定着。自転車専用道路が整備されている背景もある

甲斐田先生愛用中のヘルメット

<結論>
日本と海外には意識の差がある
日本人: 記述的規範の意識が強い
海外: リスク軽減を優先

今後、留学生などへの意識調査を検討

18

4. 調査
19 B. 現状把握アンケート

筑波大生のヘルメットへの意識の調査のためアンケート調査を実施（現状把握アンケート）

現状把握アンケート概要

n数	筑波大学に在学している学生 245名（男性：133人、女性：112人）
調査時期	2025年10月17日～24日
方法	Webアンケート調査
調査項目	個人属性(所属 / 学年 / 性別) ヘルメット着用経験(着用有無 / 着用開始時期 / 着用動機 / 改善点) 今後のヘルメット着用意向(今後の着用意欲 / 新型ヘルメットの認知・評価)

ヘルメット着用に対する意識調査

筑波大学理工学群社会工学類都市計画専攻の都市計画演習3班では茨城県産の全面協力のもと「大学生の自転車ヘルメット着用促進」をテーマに演習を行っています。そこで、筑波大生のヘルメット着用の実態を把握するため、アンケート調査を行うことになりました。

この調査は匿名回答になっております。所要時間は約2分です。ぜひご協力お願いいたします。

お問い合わせ先
理工学群 社会工学類 都市計画専攻
都市計画演習 3班 大平祐司
(y241227@ipc.tusubaku.ac.jp)

*必須の質問です

19

4. 調査
20 B. 現状把握アンケート分析結果

ヘルメット着用割合

性別	いいえ	はい	以前着けていた
男性	76.6%	13.7%	9.7%
女性	75.0%	6.7%	18.3%

男性の着用率は女性の約2倍

女性は男性よりも着用を辞めてしまう傾向

20

4. 調査
21 B. 現状把握アンケート分析結果

ヘルメットを着けない・着けなくなった理由

置き場所に困る男性

髪型を気にする女性

※回答方法：複数回答、サンプル数245

21

4. 調査
22 C. ヘルメット着用体験

・大学生のヘルメットのニーズの把握 ・ファッションヘルメットの認知度向上のためにヘルメットの着用体験を実施

方法	パンフレット配布・ヘルメット着用体験
調査時期	2025年10月21日～24日
場所	3A棟前・平砂カスミ前
調査の流れ	事故やヘルメットの情報を記載したパンフレットを配布 ↓ 着用体験の依頼 ↓ 着用体験アンケートへの回答依頼

22

4. 調査
23 C. ヘルメット着用体験

①カスケッタタイプ

- 丸みのあるカスケッタ型
- 短いつばあり
- 灰色

②ベースボールキャップタイプ

- ベースボールキャップ型
- つばあり
- ロゴ付き

23

4. 調査
24 C. ヘルメット着用体験

③カジュアルキャップタイプ

- 黒のベースボール型
- 頭のサイズに合わせて調整可能
- 柄なし

④アウトドアタイプ

- つばが広い
- 深緑色
- 山登りで使うような形

⑤ノーマルタイプ

- 従来のヘルメットの形
- 頭のサイズに合わせて調整可能

24

4. 調査
25 C. ヘルメット着用体験

配布したパンフレットのデザイン

25

4. 調査
26 C. ヘルメット着用体験

26

4. 調査
27 C. ヘルメット着用体験アンケート

筑波大生のヘルメット着用後の態度変容を把握するためアンケート調査を実施 (着用体験アンケート)

着用体験アンケート概要

n数	筑波大学に在学している学生 61名 (男性：42人、女性：18人、その他：1人)
調査時期	2025年10月21日～24日
方法	着用体験者へのWebアンケート調査
調査項目	個人属性(所属 / 学年 / 性別) ヘルメット着用経験(着用有無) ヘルメット着用体験感想(着用したヘルメットの評価 / ヘルメット着用意向)

自転車用ヘルメット着用体験に関するアンケート

筑波大学理工学群社会工学類都市計画専攻の都市計画演習3班では茨城県警の全面協力のもと「大学生の自転車用ヘルメット着用促進」をテーマに演習を行っています。今回の着用体験による、自転車用ヘルメットへの着用への態度変容についての調査を行うため、アンケートを実施することになりました。

この調査は匿名回答になっております。所要時間は約1分です。ぜひご協力お願いいたします。

お問い合わせ先
理工学群 社会工学類 都市計画専攻
都市計画演習3班 10-233室

27

4. 調査
28 C. ヘルメット着用体験アンケート

回答数61人 男性42人、女性18人、その他1人

試着の感想

試着の感想	1	2	3	4	5
大きさ	2%	21%	39%	30%	8%
運びやすさ	8%	28%	23%	34%	7%
通気性	2%	18%	38%	34%	8%
軽さ	2%	13%	44%	39%	2%
デザイン	0%	10%	54%	36%	0%
着け心地	3%	3%	30%	46%	18%

28

4. 調査
29 C. ヘルメット着用体験アンケート

どの値段なら買いたいか

価格帯	割合
1. 2000円以下	30%
2. 2000円-4000円	39%
3. 4000円-6000円	21%
4. 6000円-8000円	7%
5. 8000円-11000円	3%

平均3,230円

29

4. 調査
30 C. ヘルメット着用体験アンケート

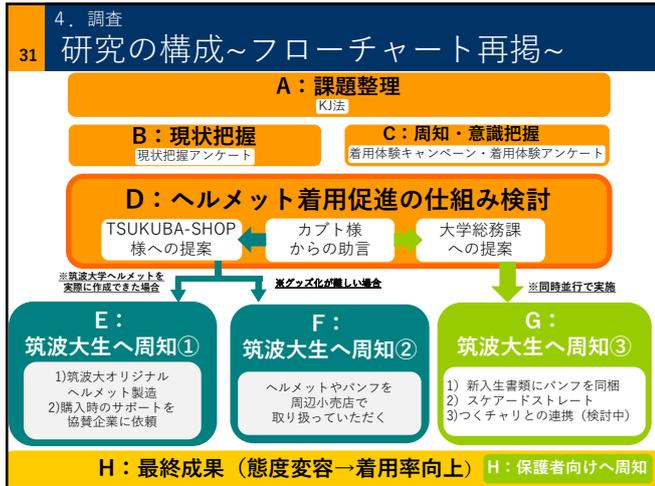
ヘルメットタイプ別順位 (性別)

ヘルメットタイプ	性別	1位	2位	3位	4位	5位
ヘルメットタイプ1	男	0%	12%	12%	14%	62%
ヘルメットタイプ1	女	0%	11%	0%	17%	72%
ヘルメットタイプ2	男	12%	12%	10%	45%	21%
ヘルメットタイプ2	女	11%	11%	17%	39%	22%
ヘルメットタイプ3	男	19%	17%	3%	36%	10%
ヘルメットタイプ3	女	17%	17%	39%	28%	0%
ヘルメットタイプ4	男	38%	21%	21%	29%	7%
ヘルメットタイプ4	女	28%	17%	33%	22%	17%
ヘルメットタイプ5	男	31%	21%	14%	24%	10%
ヘルメットタイプ5	女	44%	22%	22%	11%	0%

男性1番人気!

女性1番人気!

30



31

4. 調査
32 今後のスケジュール

今後の予定	11月17日~	11月24日~	12月1日~	12月8日~	12月15日	
B,C: アンケート結果の精査	→					筑波大生のヘルメット着用率向上
D: ヘルメット着用促進の仕組み検討	→					
E: ヘルメット作成or普及		→				
D: 研究に基づきパンフレット作製		→				
F: 周辺小売店へのパンフレット設置交渉		→				
G: 新入生への広報手法の検討			→			

32

6. 参考文献

33

33

34 6. 参考文献

[1] 山元敏久, 2024, 自転車用ヘルメットに対する消費者意識, 比治山大学紀要 第30号, p41-48

[2] 谷口嘉男, 谷口俊治, 志堂寺和則, 2020, 小・中学生の自転車運転行動とヘルメット着用の背景要因, 交通心理学研究 第36号, p31-41

[3] 内藤英二, 2014, 【大学生によるまちづくり提案】宇都宮市内を走る自転車利用者のヘルメット装着率を高くすることで市民の安全を守るためにはどうしたらいいか, 宇都宮共和大学 都市経済研究年報 第14号, p166-177

[4] 佐々木淑恵, 戸倉直, 萩原一郎, 2024, お洒落なヘルメットの開発, 計算工学講演会論文集 Vol 29

34

35 6. 参考文献

[5] Jean-Baptiste Richard, Bertrand Thélot, François Beck, 2013, Evolution of bicycle helmet use and its determinants in France: 2000-2010, Accident Analysis & Prevention Vol 60, p113-120

[6] 北田淳子, 2006, 広報パンフレットの効果測定に関する研究—パンフレットの構成要素が態度変容に及ぼす影響, 広告科学 第47号, p17-32

[7] 吉田信彌, 2018, 知識と行動の間にある溝をみつめよう, 交通安全教育 第53号, p6-13

[8] 鈴木裕介, 2020, 自転車運転時のヘルメット着用義務化による社会的費用の削減効果に関する一考察, 交通学研究 第64号, p115-122

35

36 6. 参考文献

[9] Paul Slovic, 1987, Perception of Risk, Science Vol 236, p280-285

[10] 藤井聡, 2003, 社会的ジレンマの処方箋 都市・交通・環境問題のための心理学, ナカニシヤ出版

[11] 南雲治嘉, 2006, 和風カラーチャート, 株式会社グラフィック社

[12] ディックカラーアードデザイン株式会社, 2007, 和の配色辞典, 技術評論社, 4版

36

ご清聴ありがとうございました



Public Psychology Lab., University of Tsukuba 37